

心の散歩道

『心が亡ぶと本質を忘れる』

このところの不景気、日本社会の混迷、それに少年の問題や環境ホルモン等、どちらを向いても心の和む話は少ないですね。でも、よくよく考えてみると、個人主義の人間優先的な現在社会を物語っているように思うのですが。

心地よい空気を吸いに庭に出ると、先日子供たちと植えた草花が花を咲かせ、蝶々が飛び交っている光景が目

に飛び込んできた。

甘い蜜を求めて花の間をふわりふわりと飛び回る蝶々。

ふりそぞろ陽射しを受けて、そこだけはのどかな空間が広がり、のんびりした社会。つかの間の心安らぐ光景。

しかし、何故か先ほどの

静かな、悠々たる光景とは別に、次から次へと休む間もなく飛び回る姿を見て、忙しいと思う人がいる。ちっぽけな虫が花の周りを飛んでいるだけだと思ふ人も

いる。また、蜘蛛からすれば、美味しそうな餌だと思ふだろう。

同じ光景を見ても、その時の気持ち一つで感じ方が全く異なってくる。私たちが生活しているなかでも、思い違いや思いこみによる意見の相違が多くある。他人の意見などに耳をかさず、否定してしまふ。そのことによって人との間に争いや、わだかまりが生じ、生活しにくい環境を作り上げてしまうこともある。自分の考えが正しいと思うと同時に、周囲の人のそれぞれの思いも同じように正しいと捉え方を広げ、自分を磨き心を広げ育むことも大切であると感ずる光景でもあった。

現在社会も同じではないでしょうか。不景気だと喘ぐ人も居れば、物質優先的な社会が本当に幸せなんだろうかと考え直す人もいる。また、もっと自然を大切に人間本来の生活を営む必要があると考える人、人様々。しかし、私たちは宇宙の中の地球に住まわせていただき、多くの物のお陰（ちから ささえ）で生きさせていただいているという本質を忘れてはいないでしょうか。

個人の幸せ、物の豊かさが幸せと考えるのも正しい事でしょうが、人間優先的な考えで、現実のみを追う社会に一つの警鐘を鳴らしているように、現在の現象を受け止めるのも一つでしょう。

お盆も同じように、国民の休日ととらえる人も多いようですが。ご先祖様が居られたからこそであり、今生きておられるのは目に見えない全ての物のお陰である事を知るのもお盆です。竹で棚を造り佛を祭る、小芋の葉に色々な供え物をする、これ一つ一つに意味があり永年受けつがれてきたことが、近年その意味を忘れ、時代が変わったとか、忙しいと言う言葉で形式だけになっていないでしょうか。心が亡ぶと『忙しい』とか『忘れる』と言う言葉になります。

お盆、お孫さんと一緒に、ご先祖様に手を合わし、今生きて居れることの有り難さを喜び、その心をお供えしたいものです。

